

第2回久慈地区新設高等学校統合検討会議

I 日時 令和5年8月28日(月) 15:00-

II 会場 岩手県立久慈東高等学校 視聴覚室

III 次第

1 開会

2 久慈地区新設高等学校統合検討会議座長挨拶

3 報告

(1) 久慈地区新設高等学校校名案公募について

(2) 統合課題検討チーム会議及び教育内容検討チーム会議について

4 協議

協議事項1 校名案について

協議事項2 校訓の決め方について

協議事項3 学校教育目標の方向性①について

協議事項4 スクール・ポリシーの方向性①について

協議事項5 学びの在り方①について

協議事項6 総合学科の教育内容の検討①について

協議事項7 工業学科の教育内容の検討①について

協議事項8 校章の決め方について

協議事項9 校歌の決め方について

協議事項10 制服の決め方について

協議事項11 その他

5 その他

6 閉会

久慈地区新設高等学校統合検討会議構成員名簿

番号	氏名	役職
1	後 忠 美	久慈市教育委員会教育長
2	菊 地 理	野田村教育委員会教育長
3	山 王 敏 彦	久慈商工会議所会頭
4	小野寺 健 二	野田村商工会会長
5	小 橋 敏	久慈市立久慈中学校校長
6	菊 池 勉	野田村立野田中学校校長
7	野 場 貴 行	久慈市 PTA 連合会会長
8	三 上 達 也	野田村 PTA 連合会会長
9	澤 口 佳 介	岩手県立久慈東高等学校同窓会長
10	川 原 幸 夫	岩手県立久慈工業高等学校同窓会長
11	久 保 繁 明	岩手県立久慈東高等学校 PTA 会長
12	蒲 野 隆	岩手県立久慈工業高等学校 PTA 会長
13	佐々木 寛	岩手県立久慈東高等学校校長
14	水 野 扶佐史	岩手県立久慈工業高等学校校長

3 報告

(1) 久慈地区新設高等学校校名案公募について

ア 公募期間

令和5年6月8日（木）～令和5年7月5日（水）

イ 周知方法

- (ア) 岩手県立久慈東高等学校及び岩手県立久慈工業高等学校のホームページに掲載
- (イ) 県ホームページに掲載
- (ウ) 久慈東高等学校及び久慈工業高等学校の保護者へお知らせ
- (エ) 久慈市、野田村、洋野町、普代村の各市町村教育委員会及び各中学校へお知らせ

ウ 受付方法

- (ア) 応募フォーム、郵便（持参を含む）、FAX、電子メール
- (イ) 応募件数

受付方法	応募人数（人）	応募件数（件）
応募フォーム	117	119
郵便（持参を含む）	1	3
FAX	0	0
電子メール	0	0
計	118	122

(2) 統合課題検討チーム会議及び教育内容検討チーム会議について

ア 第1回教育内容検討チーム会議

- (ア) 開催日時 令和5年7月27日（木）14:30～14:50
- (イ) 開催場所 岩手県立久慈東高等学校 会議室
- (ウ) 出席者 21名
- (エ) 主な内容
 - ・ 学びの在り方①について
 - ・ 工業学科の教育内容の検討①について
 - ・ 総合学科の教育内容の検討①について

イ 第1回統合課題検討チーム会議

- (ア) 開催日時 令和5年7月27日（木）15:00～16:50
- (イ) 開催場所 岩手県立久慈東高等学校 会議室
- (ウ) 出席者 10名
- (エ) 主な内容
 - ・ 校名案公募実施結果及び校名候補案選定について
 - ・ 学校教育目標及びスクール・ポリシーの方向性①について
 - ・ 校訓、校章、校歌、制服の決め方について

4 協議

協議事項 1

校名案について

6つの校名候補案を踏まえ、統合検討会議において4つの校名案を選定し、県教育委員会に推薦する。

応募のあった校名を参考に、次の考え方により、統合課題検討チーム会議で協議し、A、B、Cの各グループに分けながら、6つの校名候補案を選定した。

1 候補案選定の考え方

- ・ 久慈地区の産業人材を育成する明るいイメージのものであること。
- ・ 市村を越えた統合であるが、両校とも「久慈」の文字が校名に入っているため、「久慈」の文字を付けた案も取り入れる。
- ・ 学びがわかる「工科」と「総合」を合わせた「工科総合」の文字を付けた案も取り入れる。

2 校名候補案

案	校名候補案 (ふりがな)	理由
①	北耀 (ほくよう)	<ul style="list-style-type: none"> ・「北」は、学校が沿岸北部の中心となって発展してほしいという期待を込めた。 ・「耀」は、久慈の琥珀と野田のマリンローズの様に、地域の宝としていつまでも耀いてほしいという願いを込めた。
②	翔北 (しょうほく)	<ul style="list-style-type: none"> ・「北」は、学校が沿岸北部の中心となって発展してほしいという期待を込めた。 ・「翔」は、明るい未来に向かって飛翔するという願いを込めた。 ・地域社会での活躍・貢献を願い「県北の地・久慈市から翔る」との思いを込めた。
③	魁星 (かいせい)	<ul style="list-style-type: none"> ・「魁」は、北斗七星の柄杓の部分の輝く第1から4星を、久慈東高校新設時の統合の様子を踏まえ、農林、商業、水産、工業の4つの統合校と見立てた。中国では柄杓の器の部分を作る、天枢、天璇、天璣、天権の4つを魁(かい)、柄の部分を作る、玉衡、開陽、搖光の3つを標または杓(ひょう)、あわせて斗と一字でよぶこともある。 ・「星」は、地域に明るい光を照らし続ける、未来を担う人材育成を目指す高校となる願いを込めた。
④	北三陸 (きたさんりく)	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎が久慈市と野田村に別れるため、「久慈」というワードは使わず、NHK連続テレビ小説あまちゃんに久慈地域を示していた「北三陸」とした。 ・再放送されている「あまちゃん」は、今でもその魅力は色褪せず、人の心を引き付けている。全国に北三陸の魅力を発信し、観光などにおいても多大な貢献のあったあまちゃんは、久慈にとって特別な作品である。作品の中で登場した北三陸高校を校名にすることで、震災から復興を続ける地域の誇りや希望を高校に託す。

⑤	北三陸工科総合 (きたさんりく こうかそうご う)	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎が久慈市と野田村に別れるため、「久慈」というワードは使わず、NHK 連続テレビ小説「あまちゃん」で久慈地域を示していた「北三陸」とした。 ・再放送されているあまちゃんは、今でもその魅力は色褪せず、人の心を引き付けている。全国に北三陸の魅力を発信し、観光などにおいても多大な貢献のあったあまちゃんは、久慈にとって特別な作品である。作品の中で登場した北三陸高校を校名にすることで、震災から復興を続ける地域の誇りや希望を高校に託す。 ・両校の設置学科である総合学科と工業学科から、地域と共に未来を切り開く最先端技術と人間性を育てる学校になることを願って、両校の学びがわかる「工科総合」をつけた。全国的に見ると、工業高校は学科改編や統合により、工科高校への校名変更もみられる。また、「総合工科」の場合は、工業の学科を複数持つ工業高校と捉えることができるため、「工科総合」とした。
⑥	久慈工科総合 (くじこうかそ うごう)	<ul style="list-style-type: none"> ・市村を越えた統合であるが、両校とも「久慈」の文字が校名に入っている。また、両校の学校がある場所は久慈広域と表現できることから、愛着のある「久慈」の文字をつけた。 ・両校の設置学科である総合学科と工業学科から、地域と共に未来を切り開く最先端技術と人間性を育てる学校になることを願って、両校の学びがわかる「工科総合」をつけた。全国的に見ると、工業高校は学科改編や統合により、工科高校への校名変更もみられる。また、「総合工科」の場合は、は、工業の学科を複数持つ工業高校と捉えることができるため、「工科総合」とした。

協議事項 2

校訓の決め方について（案）

両校の校訓を参考にしながら、新たな校訓を作成する。

1 理由

学校教育目標の作成状況を踏まえ、両校の校訓を参考にしながら、新たな学校にふさわしい校訓を作成する。

2 検討スケジュール

- ・ 統合課題検討チーム会議において校訓案を作成する。
- ・ 作成した校訓案を第3回統合検討会議に提案し、第3回統合検討会議において協議、決定する。

3 両校の校訓について

久慈東 高等学校	礼節	進取	剛健		
久慈工業 高等学校	敬愛礼節	協調団結	技術錬磨	積極実践	至誠責任

学校教育目標の方向性①について（案）

両校の学校教育目標や地域の文化を受け継ぐとともに、時代の変化を踏まえ、新たな学校教育目標を作成する。

1 理由

学校教育目標は、学校や地域が作り上げてきた文化を受け継ぎつつ、子どもたちや地域の変化を受け止めた不断の見直しや具体化が求められることを踏まえ、作成する。

2 検討スケジュール

- ・ 統合検討チーム会議において教育目標案を作成する。
- ・ 作成した教育目標案を第3回統合検討会議に提案し、第3回統合検討会議において協議、決定する。

3 両校の学校教育目標

(1) 久慈東高等学校

- ・ 個性を伸ばし、創造的な人間を育成する。
- ・ 心身ともに調和がとれ、自己実現を目指す人間を育成する。
- ・ 地域の伝統・文化を尊重し、地域の発展に寄与する人間を育成する。

(2) 久慈工業高等学校

- ・ 能力、適性を伸張し、主体的に行動する人間の育成
- ・ 技術、技能を尊重し、勤労を貴ぶ人間の育成
- ・ 豊かな教養を育み、創造力豊かな人間の育成
- ・ 心身ともに健康で、自他を敬愛する人間の育成

スクール・ポリシーの方向性①について（案）

統合新設校の学校教育目標をもとに、新たなスクール・ポリシーを作成する。

1 理由

令和3年10月26日付け教学第1261号、「いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031 及びスクール・ポリシーの策定について」に基づき、各学校において学校教育目標の達成や「いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031」に基づく、特色・魅力ある教育の実現に向け、高等学校入学から卒業までの教育活動を体系的なものに再構築するとともに、持続可能な教育活動を担保するため、高等学校ごとに「三つの方針 スクール・ポリシー」の策定・公表を行うこととする。

2 検討スケジュール

- ・ 統合課題検討チーム会議において、スクール・ポリシー案を作成する。
- ・ 作成したスクール・ポリシー案を、第3回統合検討会議に提案し、第3回統合検討会議において協議、決定する。

3 両校のスクール・ポリシー

(1) 久慈東高等学校

別冊資料参照

(2) 久慈工業高等学校

別冊資料参照

学びの在り方①について（案）

<目指す方向性>

地域社会や地域産業を支える総合学科の各系列の多様な学びを維持並びに複数の工業の学びを確保する。

また、統合新設高等学校においては、統合による総合学科の人文、自然、農業、商業、水産、家庭、福祉と工業学科の学びの連携、地域と協働した活動（インターンシップ、探究活動等）の一層の充実を図り、地域の人材育成を担う。

1 理由

統合新設高等学校には、久慈地域の将来を担う人材の育成が求められており、現行の教育内容を基本としつつ、久慈地域の社会や産業を支える人材を育成する高等学校として、地域との連携を深め、久慈地域の子どもたちに選ばれる高等学校を目指すことが適当と考えられるため。

2 新設校の学びについて

募集学級	系列名又はコース名	科目群（総合学科のみ）
総合学科 5学級	ア 人文科学	a 人文科学
	イ 自然科学	a 自然科学Ⅰ b 自然科学Ⅱ
	ウ 環境緑化	a 生物生産 b 森林生産
	エ 情報ビジネス	a 経営情報 b 簿記会計 c 流通ビジネス
	オ 海洋科学	a 海洋科学
	カ 食物	a 食物
	キ 介護福祉	a 介護福祉
工業学科 1学級	ア 機械コース	—
	イ 建設コース	—

3 工業学科のコースについて

(1) 現有の施設・設備を有効活用し、複数の工業の学びを確保する。

(2) 1学科2コースとする。

(3) 次の事項を踏まえたコース編成とする。

ア 久慈工業高校の設置目的

イ 地域産業を含めた地域の要望

ウ 県の産業を支える工業高校生の育成方針

エ ここ数年の久慈工業高校の入学者数の状況

オ 「いわて県民計画（2019-2028）」で示されている「10年後の将来像の実現をより確かなものとする」。

カ 「いわて県民計画（2019-2028）」で示されている、「長期的な視点に立って、新しい時代を切り拓いていく11のプロジェクト」の中の、「2 北上川バレープロジェクト（自動車産業を中心とした産業集積が進み、新たな雇用が見込まれる。岩手県の産業の中心的役割を担う産業振興でもある。）」及び「3 三陸防災復興ゾーンプロジェクト（復興の取り組みにより大きく進展したまちづくりや港湾機能。これらを維持するための整備などを生かした産業）」。

キ 県として、沿線と沿岸・県北との産業のつながりを生み出す連携を深化させていく。

総合学科の教育内容の検討①について（案）

<目指す方向性>

地域社会や地域産業を支える総合学科の各系列の多様な学びを維持する。

1 総合学科の教育内容

(1) 系列及び科目群

ア	人文科学系列	a	人文科学科目群	
イ	自然科学系列	a	自然科学Ⅰ科目群	b 自然科学Ⅱ科目群
ウ	環境緑化系列	a	生物生産科目群	b 森林生態科目群
エ	情報ビジネス系列	a	経営情報科目群	b 簿記会計科目群
		c	流通ビジネス科目群	
オ	海洋科学系列	a	海洋科学科目群	
カ	食物系列	a	食物科目群	
キ	介護福祉系列	a	介護福祉科目群	

(2) 系列の学習内容及び主な受験可能資格

ア 人文科学系列

大学の文系学部への進学を志望する生徒を対象に、人文系の科目を中心に学習し、総合的な学力の向上を図ります。漢字能力検定や実用英語技能検定などの取得も目指します。
受験可能な資格等：英語検定、漢字検定、数学検定

イ 自然科学系列

大学の理系学部への進学を志望する生徒を対象とした自然科学Ⅰ科目群と、医療系学校への進学を志望する生徒を対象とした自然科学Ⅱ科目群があります。理数教科を中心に、自然科学の基礎となる一般教科を幅広く学習します。

受験可能な資格等：英語検定、漢字検定、数学検定

ウ 環境緑化系列

実験実習をとおして職業観や生命を尊重する態度を身に付けながら学習します。野菜および草花の栽培などを中心に学ぶ生物生産科目群と、森林の生態系や木材の加工について学ぶ森林生態科目群があります。

受験可能な資格等：アーク溶接、小型車両系建設機械

エ 情報ビジネス系列

情報に関する知識と技術を習得する経営情報科目群、簿記会計に関する専門的な知識と技術を習得する簿記会計科目群、流通に関する技術と知識を習得する流通ビジネス科目群があります。商業科目の知識を深めるとともに、資格取得や販売実習などをおして学習します。

受験可能な資格等：全商簿記実務検定、全商情報処理検定、全商商業経済検定、日商簿記検定、ITパスポート

オ 海洋科学系列

漁業者から学ぶ「明日の浜人応援事業」、潜水実習、食品製造実習、乗船実習など数多くの体験をおして学習し、知識と実践力、勤労観を身に付けます。

受験可能な資格等：二級小型船舶操縦士、食品技能検定Ⅰ類、HACCP基本、スクーバダイビングCカード、四級海技士航海（筆記）、潜水士

カ 食物系列

調理師養成課程を設置しています。調理師免許の取得を目指し、調理理論、調理実習、栄養、食品、食品衛生、公衆衛生、食文化などについて学習し、知識と技術を身に付けます。

受験可能な資格等：調理師免許、食物調理技術検定

キ 介護福祉系列

福祉に関する基礎的、基本的な知識と技術を学び、施設現場実習 などとおして介護福祉士としての資質を高め、高校卒業後の介護福祉士国家資格取得を目指します。

受験可能な資格等：介護福祉士（卒業後3年の実務経験を経て受験資格を取得）

2 総合学科の学科名

(1) 学科名

「総合学科」とする。

(2) 理由

全国的に総合学科は「総合学科」という名称が使用されており、認知されている。

工業学科の教育内容の検討①について（案）

<目指す方向性>

地域社会や地域産業を支える複数の工業の学びを確保する。

1 工業学科の教育内容

(1) コース

- ア 機械コース
- イ 建設コース

(2) コース設定理由

ア 機械コース

(ア) 機械の学習内容には、機械だけでなく、電気、情報、制御の学習内容が含まれる。機械コースの学びをとおして、発展する技術に対応した実践的なものづくり教育を行う。

イ 建設コース

(ア) 久慈地区の産業は土木が中心的な役割を担ってきた。いわて県民計画で示される「三陸防災ゾーンプロジェクト」は、復興したまちづくりや港湾機能を維持・管理するためにも、土木を中心とした学びをとおし、地域産業を支える人材育成が必要である。

(イ) 本校が培ってきた木材加工のものづくりは、地域でも評価が高いことから、教育課程の一部に木材加工を取り入れる。

(3) 学びの特色

1 学科 2 コースの教育課程に次の内容を盛り込む。

ア 「工業基礎」の科目は、機械コースと建設コースの生徒が横断して学ぶことを可能にする。
(溶接、引っ張り試験測定 等)

イ 久慈工業高校は工業学科で学ぶ女子の割合が全国平均を上回っている。3D-CAD デザインや木材加工デザインなど、形を想像できる実習を PR することにより、ものづくりの女性技術者を目指す生徒を育成する。

ウ 就職だけでなく、工業の学びを通じて工業系の大学等の進学に力を入れ、普通高校にはない専門性を身につけ、さらに大学での高い専門性を学び、地元に戻る人材を輩出できる工業学科としての取り組みを実践する。

2 工業学科の学科名

(1) 学科名

「工業科」とする。

(2) 理由

教科「工業」の高度な専門性を明確に表し、地域の産業界にも学びの内容が理解していただける名称とする。

協議事項 8

校章の決め方について（案）

新たな校章を作成する。両校の生徒・保護者・教職員からデザイン案を募集し、業者に委託してデザイン化する。

1 理由

新しい学校が開校することから、新しいデザインの校章とする。

2 検討スケジュール

- ・ 両校の生徒・保護者・教職員からデザイン案を募集する。
- ・ 統合課題検討チームで応募のあった案から候補案を選出する。
- ・ デザイン候補案を業者に委託してデザイン化する。
- ・ 統合検討会議で協議、決定する。

3 参考 現在の両校の校章について

校名	久慈東高等学校	久慈工業高等学校
校章		
由来	三高校（久慈農林、久慈水産、久慈商業）をそれぞれ人型に表し、三人がしっかりと手を取りあって、ひとつになり躍進しているイメージで作成された。	建築、土木、インテリア科が集まって久慈の久の字を形作り、三本の矢に託した三科の結束を表す。また地理的に海、山、大地の三方向へ悠久に力強く発展する意味を表現し、工の字との組み合わせによって、よき工業人を目指している。分離母体である久慈高校校章のデザインをベースとして、その形を残し、これを表したベースの三角形は、大地であり、大地にしっかり礎を築く意味がある。なお、平成4年度からインテリア科にかわり電子機械科が設置され、平成19年度から土木科、建築科にかわり建設環境科が設置された。

校歌の決め方について（案）

新たな校歌を作成する。専門家等（音楽科教員を含む）に依頼し作成する。

1 理由

新しい高校にふさわしい校歌を作成する。

2 検討スケジュール

- ・ 依頼先等（依頼者、作詞、作曲（ピアノ伴奏込み）、何番まで）を統合課題検討チームで検討し依頼先等の案を作成する。
- ・ 作成した依頼先等案を、第3回統合検討会議に提案し、第3回統合検討会議において協議、決定する。

3 両校の校歌について

（1）久慈東高等学校

著作権の都合上、校歌の掲載を控えます。なお、久慈東高等学校校歌は、同校のHP (<https://www2.iwateed.jp/kue-h/>) に掲載しておりますのでご参照ください。

平成 16 年 4 月 1 日開校

作詞 及川 恒平 作曲 松尾 一彦

（2）久慈工業高等学校

著作権の都合上、校歌の掲載を控えます。なお、久慈工業高等学校校歌は、同校のHP (<https://www2.iwateed.jp/kut-h/>) に掲載しておりますのでご参照ください。

昭和 56 年 10 月 1 日制定

作詞 谷川 俊太郎 作曲 小森 昭宏

協議事項 10

制服の決め方について（案）

生徒・職員の意見を参考にして新しい制服を作成し、令和7年度入学生から新しい制服を着用する。令和5年度、6年度入学生については、現在の両校の制服を着用する。

1 理由

生徒、職員、近隣の中学生の意見を参考にして新しい制服を作成し、地域や中学生に統合新設高校のイメージを持ってもらう。

2 検討スケジュール

令和5年 8月	第2回統合検討会議、制服の決め方を協議、決定
令和5年 9月以降	アンケート調査、 複数の業者選定、複数の業者のプレゼンテーション 業者選定
令和5年12月	第3回統合検討会議、制服業者の決定
令和6年 2月	第4回統合検討会議、制服案の提示
令和6年 4月	新制服決定

3 仕様案

- ・ ジェンダーフリーを考慮した制服とする。
- ・ できるだけ安価な制服とする。

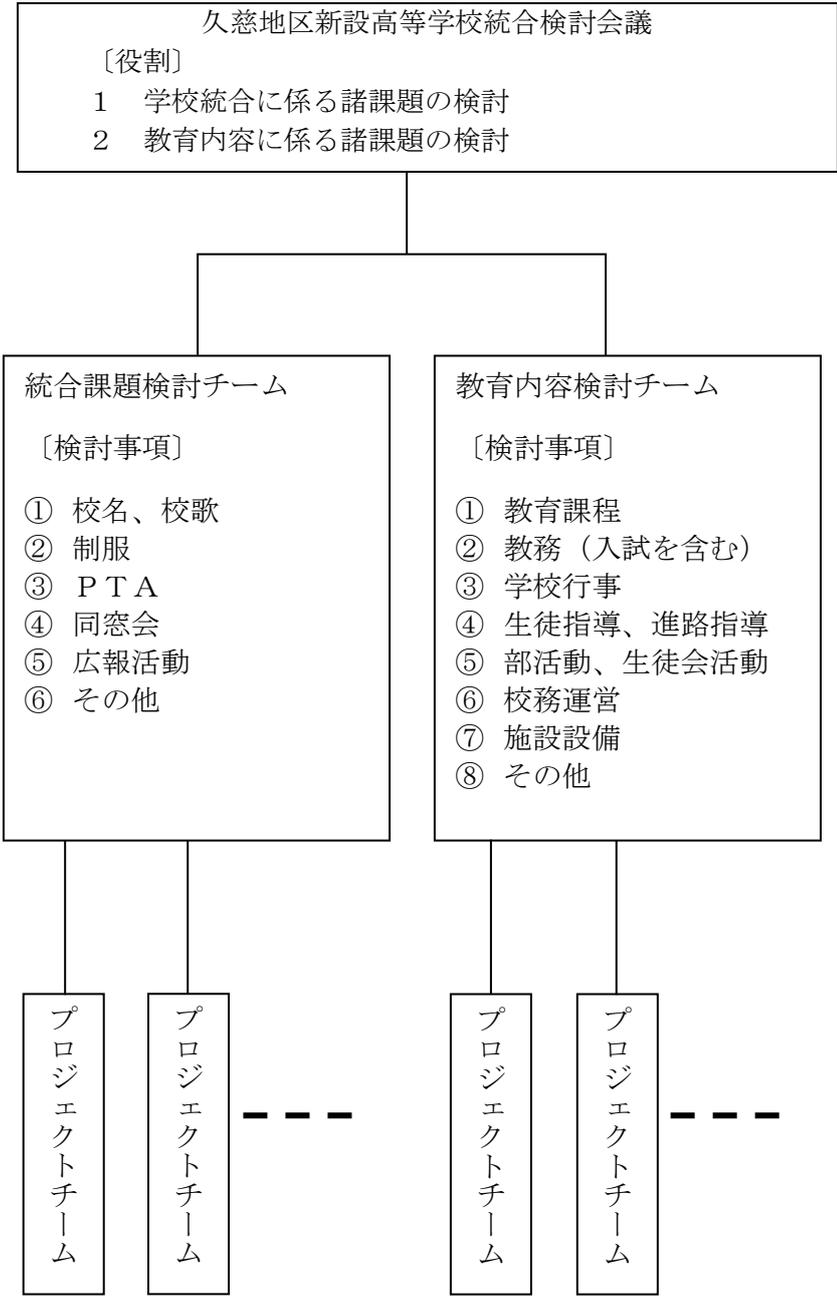
協議事項 11

その他

統合検討会議等に関するスケジュールと検討内容について

回	開催時期	検討内容
第1回	R 5. 6. 7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統合検討会議構成員の紹介 ・ 座長、副座長選出（統合検討会議組織の確認） ・ 統合検討会議設置運営要綱の決定 ・ 統合までのスケジュール等の確認 ・ 校名案の決め方 ・ 校舎制の形態の決定（「独立校舎型」又は「実習移動型」）
第2回	R 5. 8. 28	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校名案の決定 ・ 校歌、校章、校訓、制服の決め方等について ・ 統合新設校における学びの在り方① 学校教育目標及びスクール・ポリシー等の方向性① ・ 工業学科の教育内容の検討① ・ 総合学科の教育内容の検討①
第3回	R 5. 12. 25	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎の名称の検討 ・ 校歌、校章、校訓、制服等の決定 ・ 統合新設校における学びの在り方② 学校教育目標及びスクール・ポリシー等の方向性② ・ 工業学科の教育内容の検討② ・ 総合学科の教育内容の検討② ・ 工業学科の学科名称(案)、総合学科の系列の名称(案)の決定 ・ 部活動について
第4回	R 6. 2. 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎の名称の決定 ・ 統合新設校における学びの在り方③ 学校教育目標及びスクール・ポリシー等の決定
第5回 (予備)	R 6. 4. 以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細部の検討 ・ その他

別表 1



※ その他には、統合の内容により個別に検討すべき事項（校舎制の形態、設置学科の名称等）が含まれるもの。